

九州理学療法士学会大会 2023 in 熊本

理学療法の原点と 多様性の追求

プログラム・抄録集



会期

2023年 11月25日(土)・26日(日)

会場

市民会館シアーズホーム夢ホール

開催形式

ハイブリッド開催 (現地、Live配信、オンデマンド配信)

大会長

坂崎 浩一 (熊本総合医療リハビリテーション学院)

準備委員長

田島 徹朗 (九州中央リハビリテーション学院)

主催

日本理学療法士協会 九州ブロック会

主管

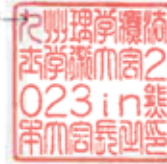
公益社団法人 熊本県理学療法士協会

令和5年9月1日

施設長殿

九州理学療法士学会大会 2023in 熊本

大会長 坂崎 浩



学会大会出張許可のお願いについて

謹啓

貴台におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。また、平素より日本理学療法士協会九州ブロック会の活動に対し格別なるご理解とご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、この度、下記のとおり九州理学療法士学会大会 2023in 熊本を開催する運びとなりました。つきましては、貴職員の_____氏の学会大会出張についてご配慮を賜りますよう謹んでお願い申し上げます。

謹白

記

- | | |
|----------|----------------------------------|
| 1. 名 称 | 九州理学療法士学会大会 2023in 熊本 |
| 2. テ ー マ | 「理学療法の原点と多様性の追求」 |
| 3. 会 期 | 2023 年 11 月 25 日（土）、11 月 26 日（日） |
| 4. 開催場所 | 市民会館 シアーズホーム 夢ホール（熊本市市民会館） |
| 5. 開催方法 | 現地対面及び WEB のハイブリッド形式 |
| 6. 内 容 | 特別講演・教育講演・シンポジウム・演題発表・市民公開講座 |
| 7. 主 催 | 日本理学療法士協会九州ブロック会 |
| 8. 担 当 | 公益社団法人 熊本県理学療法士協会 |

以上

【お問合せ先】

九州理学療法士学会大会 2023 in 熊本 事務局

（にしくまもと病院内 担当 波多埜）

E-mail : kumaren_seinenbu@yahoo.co.jp

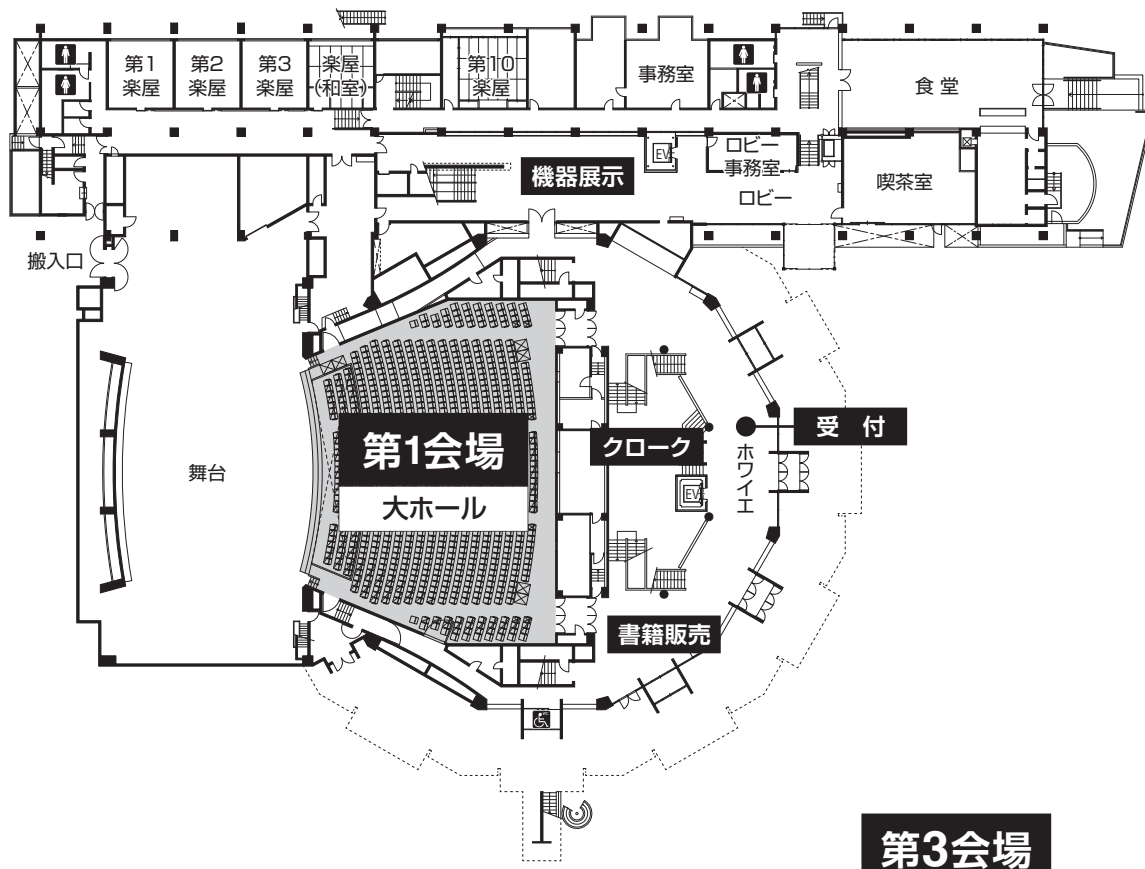
INDEX

会場案内図	3
大会長挨拶	4
九州ブロック会 会長挨拶	5
日本理学療法士協会 会長祝辞	6
参加者へのご案内	7
演者・座長へのご案内	11
日程表	14
講演プログラム	16
講師講演録と経歴	
特別講演	20
教育講演	22
シンポジウム 1	24
シンポジウム 2	30
シンポジウム 3	36
シンポジウム 4	42
市民公開講座	48
演題プログラム	50
一般演題抄録	68
後援一覧	162
準備委員会組織図	163

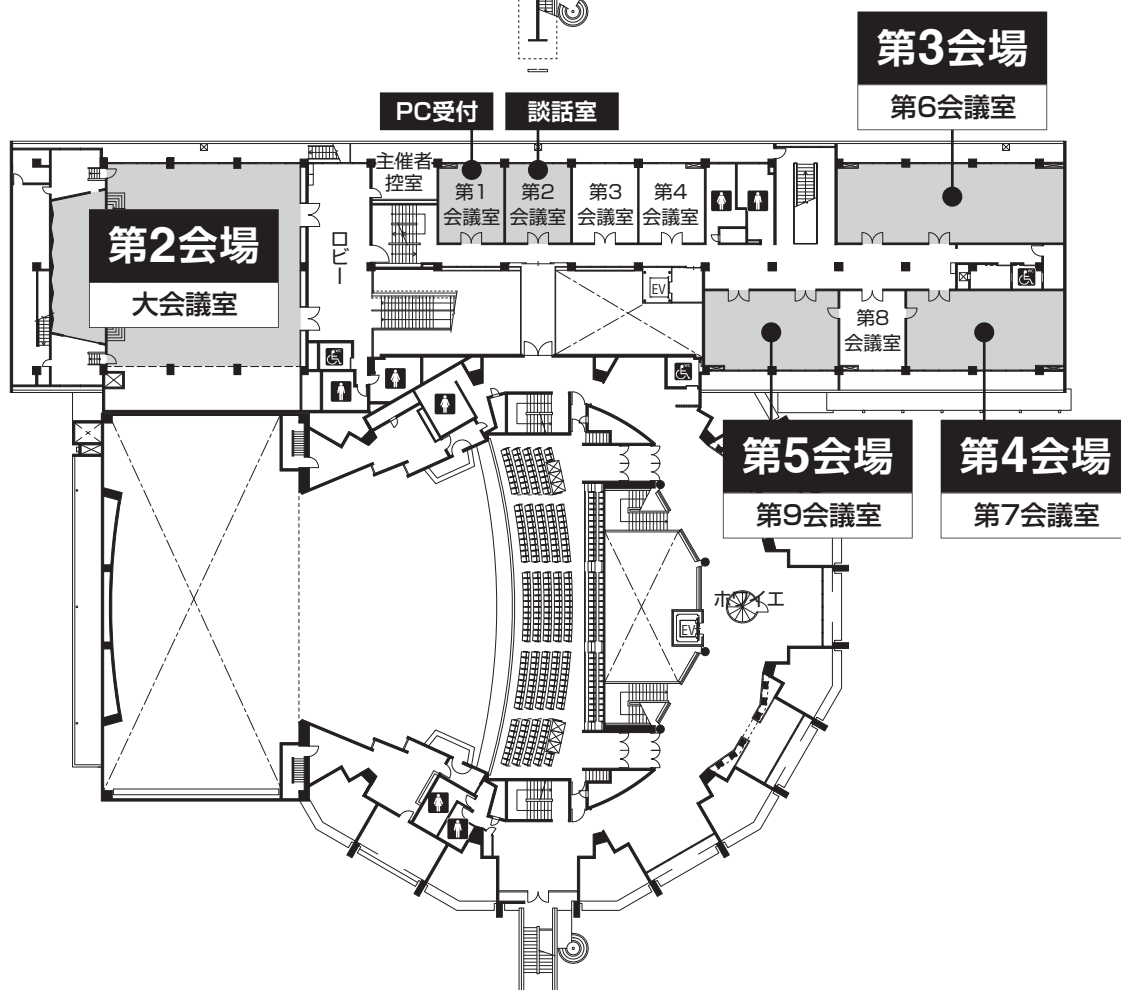
会場案内図

市民会館シアーズホーム夢ホール

1F



2F



大会長挨拶



テーマ『理学療法の原点と多様性の追求』

九州理学療法士学術大会 2023 in 熊本

大会長 坂崎 浩一

九州理学療法士学術大会 2023in 熊本の開催にあたり一言ご挨拶申し上げます。

我が国は、健康寿命が世界一の長寿社会を迎え、昨今では『人生100年時代』と言われるようになりました。この『人生100年時代』においては、「教育・仕事・老後」という3ステージの単線型の人生ではなく、マルチステージの人生を送るようになっていわれています。100年という長い期間をより充実したものとするためには、生涯にわたる学びが重要で、スポーツや文化芸術活動・地域コミュニティ活動などに積極的に関わることも、個人の人生や社会を豊かにすることに繋がるといわれています。私たち理学療法士にとっても更なる学びと変化が求められています。

私たちの身分法である理学療法士及び作業療法士法が制定された昭和40年以降、私たちを取り巻く環境は大きく変化してまいりました。その過程においては、理学療法士としての基本的視点に立ち、評価・分析そして課題解決のための様々な手技手法等をもって常に真摯に対象者に寄り添って参りました。一方では、専門性の追求と拡充、エビデンスの構築などの努力も重ねてきました。「痰の吸引」や「予防」についても対応の範囲として認められるようになりました。活躍の場も医療・保健・福祉・介護の領域はもとより、その枠を超え各種産業界へと広がりを持ちつつあります。

振り返れば、私たちは常に理学療法士としての「原点」を大切にしながらも、時代の変遷に対し柔軟かつ多様に対応し続けています。その事を踏まえ、これからの時代、何が必要なのか、何をすべきなのか、九州の理学療法士の方々と語り合い、そして、次の世代へ繋ぎたいという思いから今回のテーマを「理学療法の原点と多様性の追求」と致しました。

特別講演では、私たちが生涯を通して学び、その事が国民の保健医療福祉の向上に寄与することと原点に立ちかえって考え、将来にどう繋げていくかについて日本理学療法士協会 斎藤会長にご講演頂きます。教育講演では、私たち理学療法士が関わることの多い運動器疾患に対する理学療法について工藤先生よりご教授頂きます。シンポジウムでは「地域理学療法」「神経理学療法」「がんと呼吸の理学療法」そして「海外での活動する理学療法士」についてそれぞれのお立場のシンポジストよりご発信頂きます。市民公開講座では『フレイル・サルコペニア対策のための実践講座』と題して吉村芳弘先生にご講演頂きます。何より、九州ブロック会員の180題を超える演題発表と参加者との質疑応答には、学術大会としての醍醐味を十分に感じて頂くことができるものと期待しております。

これからの変化はこれまでの変化より更に加速し拡大してくると思います。いかなる変化の波が押し寄せても、理学療法士としての「原点」を大切に「多様性」をもって柔軟に対応し、理学療法士としての力を十分に発揮し得れば、必ずや道は開かんと強く思うところです。

理学療法士が50年後、100年後においても輝ける職業であるために、次の展開を見据えながらも基本に立ち返り、今何を考え、どう行動するかを共有できるような学術大会とならんことを心より祈念申し上げます。

九州ブロック会 会長挨拶



九州理学療法士学術大会 in 2023 熊本開催にあたり

日本理学療法士協会九州ブロック会

会長 中田 洋輔

九州理学療法士学術大会 in 2023 熊本が坂崎大会長をはじめ多くの士会関係者の協力のもと盛大に開催される運びになりますことを心より厚く御礼を申し上げますとともに心から敬意を表します。

さて、九州ブロック会九州理学療法士学術大会は、九州の理学療法士のスキルアップの場として2019年に鹿児島県理学療法士協会から開催され2021年に長崎県理学療法士協会2022年に福岡県理学療法士協会から襷を受けこの度熊本県理学療法士協会が「理学療法の原点と多様性の追求」というテーマで理学療法の原点に立ち返る視点と一方では理学療法士を取り巻く環境が時代の変遷とともに大きく変化してきている背景への順応性これを多様性と称し、理学療法士としての「原点」を大切に「多様性」をもって柔軟に対応していくこれからの理学療法士道をこの学術大会の肝としております。

2020年1月全世界を感染の恐怖に落としこんだコロナウイルス感染症も現在では5類感染症に移行しインフルエンザと同等な扱いにまで変化しました。しかしながらこの4年間に生じた生活環境の習慣化は医療のみならず介護、福祉への人的影響や活動変容まで転化をもたらしました。このような背景をいかに従来の学術研鑽意識や手技向上意識が高められるのかそして組織率の維持、向上に向けられるのか今後の大きな課題になるかと思えます。

この九州ブロック会理学療法士学術大会の位置づけも日本理学療法士協会より新たに見直された新学習教育制度によって臨床技能の質や症例検討、職場内教育等評価して頂ける設定になっております。会員としてのメリットは自らが研鑽した結果を理学療法士として専門性を評価されその結果をもって対面治療の尊さを実感できる一つのウェルビーイングとして生活の一番糧になるものと思えます。

理学療法の原点を考えてみますと病院完結型であった「医学的リハビリテーション」を背景に治療して治すことが目的、即ち治療医学の範疇でありながらリハビリテーションという理念と活動です。

では、多様性の追求とはこれは理学療法が必要であろうとする社会的カテゴリーへの対応であり「地域完結型」への移行に順応することと他方ではリハビリテーション医学では大変多くの疾病を対象としてそこに多くの職種がチームを組んで多種多様の理解と包括的な思考が生まれそしてパワーバランスを調整しながら目の前の患者様や家族等への幸せのために尽力することがあるべき姿ではないかと思われます。

結びになりますが、九州8県にて構成される日本理学療法士協会九州ブロック会は今後も強靱なスクラムを組んで一人でも多くの理学療法士が専門職としてのスキルアップを実感し邁進していけるよう企画運営に尽力致します。また参加された会員の方々がこの2日間の学術大会を契機として更なる品性の陶冶を目指し、ご健勝されることを祈念致しまして挨拶にさせていただきます。

日本理学療法士協会 会長祝辞



九州理学療法士学術大会 2023 in 熊本 ご祝辞

公益社団法人日本理学療法士協会

会長 齊藤 秀之

九州理学療法士学術大会 2023 in 熊本が、2023年（令和5年）11月25日（土）から26日（日）の日程で、熊本県熊本市の市民会館シアーズホーム夢ホール（熊本市市民会館）を会場として多くの関係者の皆様にご参加いただき盛大に開催されますこと、公益社団法人日本理学療法士協会を代表して心からお祝い申し上げます。また本学術大会の開催にあたりご尽力されました坂崎浩一大会長、岸本稔副大会長、田島徹朗準備委員長をはじめ、主管である熊本県理学療法士会会員で構成される準備委員会の皆様、さらには九州ブロックの理学療法士（協）会会員の皆様に深く敬意を表します。

本学術大会のテーマは「理学療法の原点と多様性の追求」と伺いました。坂崎浩一大会長は大会ホームページの大会長挨拶に、理学療法士としての「原点」を大切に「多様性」をもって柔軟に対応し、理学療法士としての力を十分に発揮し得れば、必ずや道は開かんと強く思うところです、と想いを述べられています。大会長ご自身が、「問題提起と行動の変革」に焦点を当てられました。まさに時期を得たテーマであり、共感を覚えた次第です。そして、小職にも特別講演として「理学療法の原点と多様性」というテーマを頂きました。詳細は抄録および当日の講演でご確認いただければと思います。

さて、今まさに我々理学療法士は、「理学療法の原点を信じ、国民に理学療法を開放する」ことが求められているといっても過言ではありません。皆様の関心を集める診療報酬・介護報酬・障害福祉サービス報酬が同時に見直される令和6年度トリプル改正では、「リハビリテーション、栄養管理及び口腔管理の連携・推進を図る」が理学療法士としては注目すべき方針です。この文言は、「経済財政運営と改革の基本方針2023」、いわゆる「骨太方針2023」の閣議決定に記載されています。そして、我が国のリハビリテーション医療における長年の課題であった急性期リハビリテーション医療の充実について、本会ではあらためてコロナ禍における急性期理学療法体制の課題・現状を整理しました。そのうえで、リハビリテーション医療関連団体協議会や厚生労働省、政権与党である自由民主党と公明党の政務調査会などで提言を行い、リハビリテーション医療関連団体協議会、日本病院団体協議会が要望に掲げ、診療報酬を議論する中央社会保険医療協議会での議論では、ほぼ全委員の賛同を得ていると聞いています。これこそが「問題提起と行動の変革」ではないでしょうか。そして、理学療法の技術の一つである体位排痰法および早期離床、これは、理学療法士資格を有する者であれば1-2人でできる技術ですが、多くの医師・看護師・看護補助者で先のコロナ禍では実践せざるを得なかったこと、つまり、理学療法士を十分に雇用している急性期病院が少なく、このことが医師・看護師・看護補助者の負担を増し、患者の命と暮らしを守ることができなかったコロナ禍の教訓も踏まえた制度の変革の機運が始まったと考えます。つまり、「理学療法の原点を信じ、国民に理学療法を開放する」ことの緒に就いたと考える次第です。

最終的にどのような改正が行われるかは予断を許しませんが、現状において多様な場で理学療法が提供され、地域共生社会において国民にとって必要である理学療法を、国民が安心・安全に享受できること、理学療法士が安心・安全に提供できる社会を実現することが変革の最終形と考えています。その実現に向けて、今後も「問題提起と行動の変革」を積極果敢に継続する力が必要となります。

最後に参加された皆さんは、この2日間の学術大会を契機とされ、日々の臨床活動の尊さ、さらに身近な周辺への発信につながる実践・業務を改めて重視し、理学療法の原点を信じ、自信をもって国民に理学療法を提供されることをご期待申し上げます。そして、「問題提起と行動の変革」を積極果敢に継続してください。結びに、皆さんの益々のご健勝をお祈り申し上げ、ご祝辞の言葉とさせていただきます。

参加者へのご案内

【概要】

2023年11月25日(土)・26日(日)の全てのセッションは、現地開催ならびにライブ配信いたします。特別講演・教育講演・シンポジウム・市民公開講座は、12月5日(火)～1月5日(金)の期間限定でオンデマンド配信いたします。

セッション名	開催・配信方法	配信期間	その他
特別講演 教育講演 シンポジウム 市民公開講座	対面 + ライブ配信 + オンデマンド配信	<u>ライブ配信</u> 11月25日(土) ・26日(日) <u>オンデマンド配信</u> 12月5日(火) ～1月5日(金)	講演後に会場およびオンラインより 質問を受け付けます
一般演題	対面 + ライブ配信	<u>ライブ配信</u> 11月25日(土) ・26日(日)	発表後に会場およびオンラインより 質問を受け付けます オンデマンド配信はありません

【参加費】

九州ブロック内 日本理学療法士協会会員	(当日)	7,000円
	(事前)	6,000円
九州ブロック外 日本理学療法士協会会員	(当日)	8,000円
	(事前)	7,000円
他職種会員(医療・福祉関連会員)		10,000円
日本理学療法士協会会員外の理学療法士		20,000円
一般の方(市民公開講座のみ)		無 料

※理学療法士の有資格者で、理学療法士協会の会費が未納の方、入会手続きが完了していない方、休会中の方は日本理学療法士協会会員外の扱いとなります。

【当日受付】

◆現地参加受付(事前参加登録済みの場合)

日本理学療法士協会会員の方

会場受付にて日本理学療法士協会メンバーアプリを使用したQRコード受付登録を行います。日本理学療法士協会メンバーアプリは事前にダウンロード・会員登録をお願いいたします。受付登録完了後、参加証・ネームホルダーをお渡ししますので名前・所属をご記入の上、会場内では必ず着用をお願いいたします。

日本理学療法士協会会員以外の方

職種に応じて受付にてご案内いたしますので係員にお尋ねください。

◆現地参加受付(当日参加登録の場合)

日本理学療法士協会会員の方

①日本理学療法士協会メンバーアプリをお持ちでクレジット決済可能な方

会場受付にて日本理学療法士協会メンバーアプリを使用した QR コード受付登録を行います。その際、クレジットカード情報の入力が必要となります。受付登録完了後、参加証・ネームホルダーをお渡ししますので名前・所属をご記入の上、会場内では必ず着用をお願いいたします。

②日本理学療法士協会メンバーアプリをお持ちでない方

会員証のご提示による会員確認を行いますので、受付にて係員にお尋ねください。参加費は受付登録時に現金でお支払いください。(九州内会員：7,000 円、九州外会員：8,000 円) 受付登録完了後、参加証・ネームホルダーをお渡ししますので名前・所属をご記入の上、会場内では必ず着用をお願いいたします。

日本理学療法士協会会員以外の方

職種に応じて受付にてご案内いたしますので係員にお尋ねください。

【オンライン参加の方へ】

全ての講演・演題発表は、Zoom ウェビナーにてライブ配信いたします。参加申し込みをされた方には Zoom ウェビナー URL、ID、パスワードをお送りしますので、そちらからご入室ください。Zoom 入室後のログにて参加確認を行いますので、申し込まれた方の氏名を表記の上、端末 1 台につき参加者一名でご参加ください。

なお、日本理学療法士協会会員で生涯学習制度ポイント・点数の取得をご希望の方は、各セッション間等で画面上に QR コードをご提示しますので、各自で日本理学療法士協会メンバーアプリにて読み込み・受付登録をお願いいたします。

【オンデマンド配信について】

本学術大会終了後、参加申し込みされた方へオンデマンド視聴用 URL をお送りしますので、配信期間中にご視聴ください。

オンデマンド配信期間：2023 年 12 月 5 日(火)～2024 年 1 月 5 日(金)

オンデマンド配信のみの視聴は、生涯学習制度ポイント・点数の対象となりませんのでご注意ください。生涯学習制度におけるポイントまたは点数の付与は、学術大会会場にて受付をされるか、当日の Zoom 入室のログが必要となります。

※参加申し込みされた方で、Zoom ウェビナー URL、オンデマンド視聴用 URL が届かない場合は、お手数ですが【運営事務局】までお問い合わせください。

ライブ・オンデマンド配信の視聴に関する注意点

- (1) 配信されるスライド・動画・音声の録画や録音・スクリーンショット等は、著作権保護のため禁止させていただきます。
- (2) お送りする Zoom ウェビナー URL、オンデマンド視聴用 URL の他者への譲渡は固く禁止いたします(視聴ログで確認をさせていただきます)。
- (3) 事前に Zoom のテストページにて入室のご確認をお勧めいたします。
「<https://zoom.us/ja/test>」
- (4) 講演・演題発表への質問は Zoom ウェビナーの Q & A 機能を利用して行います。

【講演・演題発表の質問方法】

◆現地会場の場合

- ・質問は座長の指示に従い行ってください。
- ・予め会場設置のマイク前に立ち、座長より発言許可されたのち、所属・氏名の後にご発言ください。
- ・開催時の感染状況によっては、感染症対策のためマスク着用等をお願いする場合がございます。
- ・時間が限られておりますので、質問は簡潔にお願いいたします。

◆オンラインの場合

- ・Zoom ウェビナーの Q & A 機能を利用します。
- ・質問をされる際は、所属・氏名・質問内容をご入力ください。
- ・入力された質問内容は、座長一任で代行して読まれます。
- ・時間によっては、会場からの質問が優先される場合がございます。

【生涯学習制度について】

日本理学療法士協会会員においては、本学術大会の参加により生涯学習制度におけるポイントまたは点数が付与されます。

登録理学療法士 更新 9.5ポイント
(カリキュラムコード：1 プロフェッショナルリズム)

認定／専門理学療法士 更新 9.5点

※演題発表、講演講師、シンポジスト、座長、演題査読には別途、認定／専門理学療法士の更新点数が付与されます。

【領収書の発行について】

現地参加の方は、当日受付にてお渡しする参加証に領収書が印字されておりますのでご確認下さい。
オンライン参加の方で参加証および領収書をご希望の方は、下の URL もしくは QR コードよりお申込ください。

参加証・領収書発行期限：2023年12月10日(日)12時00分まで

URL：<https://bit.ly/3P2CrGE>



【学会出張許可願について】

本学術大会の参加にあたり学会出張許可願が必要な場合は、大会ホームページ（参加者へのご案内）よりダウンロードのうえ、ご利用ください。

【クローク利用時間】

11月25日（土）8：30～18：00

11月26日（日）8：30～15：30

※会場にはクロークをご準備しておりますが、スペースに限りがあるため、宿泊先に預けるなどできる限り自己管理のご協力をお願いいたします。

【感染症対策について】

- ご来場前には自身の体調に異常がないか確認の上、発熱、咳、咽頭痛、倦怠感等がある場合には来場をお控えください。
- 会場入場時は、入口での手指消毒のご協力をお願いします。
- 開催時期の感染状況によっては、感染症対策のためマスク着用等をお願いする場合がございます。
- 会場内が混み合う場合は、係の者が動線を誘導する場合がございますのでご協力をお願いいたします。
- 会場にて万が一体調が悪くなった場合は、速やかに会場スタッフへお知らせください。

その他、ご不明な点がございましたら以下の運営事務局へご連絡ください。

【九州理学療法士学術大会 2023 in 熊本 運営事務局】

株式会社コンベンションサポート九州

〒862-0975 熊本市中央区新屋敷1-14-35 クロススクエア熊本九品寺7F

TEL：096-373-9188 FAX：096-373-9191

E-mail：k-pt2023@higo.co.jp

担当：岩永

演者・座長へのご案内

【演者の皆様へ】

1. 演者受付

発表スライドのデータ受付は会場内 PC 受付で行います。総合受付で参加受付を済ませたのち、25日(土)発表予定の方は発表セッションの1時間前までに、26日(日)発表予定の方は前日の25日中に、データ受付を行ってください。なお、26日発表予定の方で前日25日のデータ受付が難しい場合は、事前に運営事務局へご連絡ください。

2. 発表時間

- ・セッション開始15分前までに、発表会場前方の次演者席へご着席ください。
- ・発表7分・質疑応答3分となります。
- ・発表時間の厳守にご協力をお願いいたします。
- ・質疑応答は座長の指示に従ってください。

3. 発表形式

- ・発表はすべてパソコンを利用した1画面映写のプレゼンテーション方式です。
- ・プレゼンテーションは、演台上のキーボード・マウスを操作し行ってください。
- ・発表内容に関しては、個人情報保護の観点から十分な注意をお願いいたします。
- ・ご自身のパソコンを持ち込んでの発表はできません。

【利益相反 (Conict of interest : COI) の開示について】

全発表者は、演題発表に際して共同演者も含めた全員の配偶者、一親等の親族、生計を共にする者、の医学研究に関連する企業や営利を目的とした団体との経済的な関係について、過去3年間における COI 状態の有無を当日発表時に自己申告してください。発表スライドの最初または演題・発表者などを紹介するスライドの次に利益相反自己申告に関するスライドを加えてください。詳細は、(一社)日本理学療法学会連合ホームページ (<https://www.jspt.or.jp/shinsa/coi/>) をご参照ください。

4. 発表データ作成要領および取り扱い

- ・本学術大会で準備するパソコンは Windows11 を搭載したパソコンとなります。
- ・Macintosh のご用意はございません。
- ・スライドは 16:9 または 4:3 で作成してください。
- ・スライドデータは、USB フラッシュメモリなどに保存し「PC 受付」にお持ちください。
- ・発表の際に動画や音声の利用も可能ですが、バックアップとしてご自身のパソコンもご準備ください。
- ・発表時は発表者ツールの使用はできませんので、発表原稿が必要な方はご自身でご用意ください。

【USB フラッシュメモリなどのデータ持ち込みに際して】

- ・アプリケーションは MicrosoftPowerPoint となります。
- ・データは PowerPoint2010/2013/2019(2016) で作成してください。
- ・ファイル名は 演題番号_演者名.ppt としてください。(例: 001_学会太郎.ppt)

- 発表データは Windows 標準フォント (MS ゴシック MS 明朝 MSP ゴシック MSP 明朝等) をご使用ください。それ以外のフォントを使用した際、正常に表示されないことがございます。
- Macintosh で作成したデータを Windows 用に変換した場合、レイアウト等に不具合等が無いかを事前にご確認ください。
- PC 受付にて USB フラッシュメモリ を介したウイルス感染の事例がございます。最新のウイルス駆除ソフトでチェックを済ませたうえでお持ちください。
- 発表データ作成後は、他のパソコンで正常に作動するかチェックしてください。
- データは学術大会が用意する Windows パソコンに一旦コピーいたしますが、発表後責任をもって消去いたします。

5. 連絡・注意事項

- 全演題の中から「本学術大会のテーマに即している」かつ「特に理学療法の今後の発展に寄与できる」とみなされるものについては、最優秀賞・優秀賞・新人賞等の表彰をさせていただきます。
- 本学術大会での発表における演題の著作権は、発表者に帰属します。当該演題が第三者の権利や利益の侵害問題を生じさせた場合、発表者が一切の責任を負うことになります。画像や文章の引用などについては十分注意してください。
- 筆頭演者が発表できない場合は、必ず共同演者もしくは代理人が発表を行ってください。
- 発表当日の急な演者変更等は、大会運営事務局へ速やかにご連絡ください。

【座長の皆様へ】

- 担当セッション当日は、現地対面での進行となりますので会場へのご参加をお願いいたします。
- すべての座長は、総合受付で参加受付を済ませたのち、担当セッションの1時間前までに座長受付をお済ませください。なお、26日(日)9:00～のセッション(一般演題21・24・27・30)をご担当の方は、当日8:30より受付を行います。
- 担当セッションの開始15分前までに、会場前方の次座長席へご着席ください。
- 進行は時間厳守(発表7分・質疑応答3分)をお願いいたします。
- 演題への質問は、会場ならびにオンライン(モニター)にて受けますので、質問の選定・指示をお願いいたします。
- 当日どうしても会場へお越しいただけない場合等は、運営側で代わりの座長を準備し進行しますので、大会運営事務局へご連絡ください。

日程表

2023年 11月25日(土)

	第1会場 大ホール	第2会場 大会議室	第3会場 第6会議室	第4会場 第7会議室	第5会場 第9会議室
	8:30～ 受	付			
9:00	9:00～9:40 開会式				
10:00	9:40～11:10 特別講演 理学療法士の 原点と多様性 講師：斉藤 秀之 座長：坂崎 浩一				
11:00					
12:00	11:20～13:00 シンポジウム1 地域における 理学療法士の 多様性 講師：池田 竜太 大籠 安男 辻 陽子 座長：北尾 昌平	11:20～12:20 一般演題1 成人中枢神経① O-001～006 座長：八谷 瑞紀	11:20～12:20 一般演題6 骨関節・脊髄① O-030～035 座長：西 啓太	11:20～12:20 一般演題11 呼吸・循環・代謝① O-059～064 座長：野中 裕樹	11:20～12:20 一般演題16 地域リハビリ テーション① O-088～093 座長：田中 陽理
13:00		12:30～13:20 一般演題2 成人中枢神経② O-007～011 座長：宮良 広大	12:30～13:20 一般演題7 ウィメンズヘルス O-036～040 座長：永野 忍	12:30～13:20 一般演題12 小児・発達 O-065～069 座長：鶴崎 俊哉	12:30～13:20 一般演題17 成人中枢神経③ O-094～098 座長：堺 裕
14:00					
15:00	14:00～15:40 シンポジウム2 神経理学療法に おける先端医療 講師：田中 貴士 菅田 陽怜 遠藤 正英 座長：濱崎 寛臣 藤崎 拓憲	14:00～15:00 一般演題3 義肢装具 O-012～017 座長：松田 憲亮	14:00～15:00 一般演題8 骨関節・脊髄② O-041～046 座長：阿南 雅也	14:00～15:00 一般演題13 測定・評価① O-070～075 座長：高野 吉朗	14:00～15:00 一般演題18 教育・管理運営① O-099～104 座長：坂崎 浩一
16:00	15:50～17:30 シンポジウム3 がんと呼吸の 理学療法 講師：森下 一樹 吉田裕一郎 神津 玲 座長：筒井 宏益 吉本 大佑	15:10～16:10 一般演題4 成人中枢神経④ O-018～023 座長：貴嶋 芳文	15:10～16:10 一般演題9 スポーツ・健康① O-047～052 座長：西原 翔太	15:10～16:10 一般演題14 測定・評価② O-076～081 座長：田口 光	15:10～16:10 一般演題19 日常生活活動① O-105～110 座長：平良 雄司
17:00		16:20～17:20 一般演題5 成人中枢神経⑤ O-024～029 座長：本田 啓太	16:20～17:20 一般演題10 骨関節・脊髄③ O-053～058 座長：河上 淳一	16:20～17:20 一般演題15 呼吸・循環・代謝② O-082～087 座長：大池 貴行	16:20～17:20 一般演題20 基礎 O-111～116 座長：坂本 淳哉

2023年 11月26日(日)

第1会場 大ホール		第2会場 大会議室	第3会場 第6会議室	第4会場 第7会議室	第5会場 第9会議室
9:00	8:30～ 受付				
	9:00～10:30 教育講演 運動器理学療法の 多様性から原点を 考える 講師：工藤慎太郎 座長：今屋 将美	9:00～10:00 一般演題21 成人中枢神経⑥ O-117～122 座長：久保田 勝徳	9:00～10:00 一般演題24 骨関節・脊髄④ O-135～140 座長：永井 良治	9:00～10:00 一般演題27 呼吸・循環・代謝③ O-153～158 座長：音地 亮	9:00～10:00 一般演題30 日常生活活動② O-171～176 座長：田中 拓樹
10:00		10:10～11:10 一般演題22 調査・統計 O-123～128 座長：安村 大拙	10:10～11:10 一般演題25 骨関節・脊髄⑤ O-141～146 座長：原田 太樹	10:10～11:10 一般演題28 呼吸・循環・代謝④ O-159～164 座長：野島 丈史	10:10～11:10 一般演題31 地域リハビリ テーション② O-177～182 座長：大田尾 浩
	10:40～12:20 シンポジウム4 海外での活動経験 ～理学療法士の World stage～ 講師：土井 篤 荒木 理恵 濱田 光佑 座長：池田 耕治	11:20～12:20 一般演題23 教育・管理運営② O-129～134 座長：佐藤 亮	11:20～12:20 一般演題26 骨関節・脊髄⑥ O-147～152 座長：飛永 浩一朗	11:20～12:20 一般演題29 測定・評価③ O-165～170 座長：久保 高明	11:20～12:20 一般演題32 スポーツ・健康② O-183～188 座長：中原 雅美
12:00	次期学会 PR				
	12:30～13:00 表彰式・閉会式				
13:00					
	13:30～15:00 市民公開講座 フレイル・サル コペニア対策の ための実践講座 講師：吉村 芳弘 座長：竹内 泉				
14:00					
15:00					

講演プログラム

特別講演

11月25日(土) 9:40～11:10 第1会場(大ホール)

座長：坂崎 浩一(公益社団法人 熊本県理学療法士協会 会長)

理学療法士の原点と多様性

—生涯学習制度を理学療法士の未来につなげ、国民に理学療法を開放する—

斉藤 秀之 公益社団法人 日本理学療法士協会 会長

教育講演

11月26日(日) 9:00～10:30 第1会場(大ホール)

座長：今屋 将美(熊本機能病院 総合リハビリテーション部 主任)

運動器理学療法の多様性から原点を考える

～変わるものと変わらないもの～

工藤 慎太郎 森ノ宮医療大学 インクルーシブ医科学研究所 教授

シンポジウム1

11月25日(土) 11:20～13:00 第1会場(大ホール)

座長：北尾 昌平(株式会社 ともしき Labo 代表取締役)

[地域における理学療法士の多様性]

eスポーツがつくる「ごちゃまぜ」の世界！

池田 竜太 株式会社 ハッピーブレイン 代表取締役
一般社団法人 UDe-スポーツ協会 代表理事

地域における理学療法士の多様性

～障害福祉領域、特に就労継続支援B型事業の立場から～

大籠 安男 株式会社 南阿蘇ケアサービス 多機能型事業所 LAB みなみ阿蘇 サービス管理責任者

「女性の健康支援」の可能性と課題

～フェムテック分野で理学療法士ができること～

辻 陽子 一般社団法人 FP ランド 代表理事

シンポジウム2

11月25日(土) 14:00～15:40 第1会場(大ホール)

座長：濱崎 寛臣(熊本機能病院 総合リハビリテーション部 主任)

藤崎 拡憲(熊本託麻台病院 リハビリテーション部 士長)

[神経理学療法における先端医療]

先端科学に基づく脳損傷病態の理解と理学療法教育

田中 貴士

熊本保健科学大学 保健科学部 リハビリテーション学科・講師

運動学習の先端脳機能研究から考える「理学療法」の原点回帰と汎化

菅田 陽怜

大分大学 福祉健康科学部 理学療法コース 准教授

当院における先端機器の活用と取り組み

遠藤 正英

桜十字グループ 福岡事業本部 リハビリテーション統括

シンポジウム3

11月25日(土) 15:50～17:30 第1会場(大ホール)

座長：筒井 宏益(江南病院 リハビリテーション科 科長)

吉本 大佑(朝日野総合病院 総合リハビリテーションセンター 主任)

[がんと呼吸の理学療法]

急性期の呼吸器とがんの理学療法

森下 一樹

済生会熊本病院 リハビリテーション部 主任

がん患者の緩和的リハビリテーションにおける呼吸管理

吉田 裕一郎

宮崎善仁会病院 リハビリテーション部

非がん性呼吸器疾患の緩和ケアと理学療法

神津 玲

長崎大学 生命医科学域 教授

長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 医療科学専攻 理学療法学分野 教授

長崎大学病院 リハビリテーション部 理学療法士

[海外での活動経験 ～理学療法士の World stage～]

貴方は理学療法士として将来どのようなキャリアプランを考えていますか？
—その選択肢としての海外留学情報について—

土井 篤

熊本保健科学大学 保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻 教授

海外経験を活かして理学療法士としての立場からスポーツ現場へ

荒木 理恵

熊本保健科学大学 リハビリテーション学科 理学療法学専攻 特任講師
Physio masseur ARAKI 代表

理学療法士としての国際活動の第一歩

濱田 光佑

愛知医療学院短期大学 リハビリテーション学科 理学療法学専攻 助教

フレイル・サルコペニア対策のための実践講座

吉村 芳弘

熊本リハビリテーション病院 サルコペニア・低栄養研究センター センター長

特別講演



斉藤 秀之
(サイトウ ヒデユキ)

職歴・役職歴

昭和63年4月	藤井脳神経外科病院 リハビリテーション科 入職
平成9年4月	医療法人社団筑波記念会 筑波記念病院 入職
平成16年2月	医療法人社団筑波記念会 筑波記念病院 リハビリテーション部 部長 就任
平成26年～28年	医療法人社団筑波記念会 リハビリテーション事業 統括～顧問 就任
平成29年6月	医療法人社団筑波記念会 顧問 就任(～平成30年7月)

学 歴

昭和63年3月	金沢大学 医療技術短期大学部 理学療法学科 卒業(現 金沢大学 医学部 保健学科)
平成6年9月	佛教大学 通信教育課程 社会学部 社会福祉学科 社会福祉学専攻 卒業 学士 (社会学、佛教大学)
平成11年3月	筑波大学大学院 修士課程 医科学研究科 医科学専攻 修了 修士(医科学、筑波大学)
平成14年3月	筑波大学大学院 博士課程 医学研究科 環境生態系専攻 修了 博士(医学、筑波大学)

主な資格

昭和63年5月	第23回理学療法士国家試験合格(理学療法士免許第16484号)(専門理学療法士)
---------	--

関連論文

1. Hideyuki Saitou, Hisako Yanagi, Shuichi Hara, Shigeru Tsuchiya and Shigeo Tomura: Cerebral blood volume and oxygenation among poststroke hemiplegic patients: Effects of 13 rehabilitation tasks measured by Near-Infrared Spectroscopy, Arch Phys Med Rehabil; 81(10): 1348-1356, 2000
2. 斉藤秀之、柳久子、奥野純子、右田玲子、戸村成男: リハビリテーション手技により骨折をきたした3症例、プライマリ・ケア; 26(2): 95-101, 2002
3. 斉藤秀之、戸村成男: リハビリテーション診療記録と診療録の一元化に関する考察、プライマリ・ケア; 28(2): 114-119, 2005
4. 斉藤秀之、小関迪、谷中清之、角田孝: 自己完結型施設における脳卒中患者に対するシームレスリハビリテーションの効果、第16回研究助成金・事業助成報告書、東京: 財団法人フランスベッド・メディカルホームケア研究・助成財団: 312-326, 2006
5. 斉藤秀之: 大量養成時代に求められる教育—2. 専門理学療法士の立場から、理学療法ジャーナル; 43(1): 18-19, 2008
6. 斉藤秀之、小関迪: 2. 小児リハビリテーションの体制をどのように作っていくか—小児地域リハビリテーションシステム、連載: 茨城県からの発信—障害のある小児を支える地域リハビリテーション—、地域リハビリテーション; 4(2): 177-181, 2009
7. 斉藤秀之: はたらく理学療法士の動機づけ、3. 理学療法士の動機づけ: ①筑波記念病院での例、理学療法ジャーナル46(11): 979-982, 2012
8. 斉藤秀之: シンポジウムⅢ「理学療法士教育のあるべき本来像本気で討論教育を変えれば未来が変わる理学療法士教育の改革を行うための道標」刷新(イノベーション)、理学療法学39(8): 480-4, 2012
9. 斉藤秀之: 特集地域包括ケアとリハビリテーション、3. 地域包括ケアシステムにおけるリハビリテーション専門職の役割—日本理学療法士協会の取り組みの視点から—、総合リハビリテーション43(9): 817-823, 2015
10. 斉藤秀之: 特集2これまでの10年とこれからの10年、理学療法の発展と課題と夢、理学療法部門のマネジメント、理学療法ジャーナル50(1): 103-105, 2016

社会活動

公益社団法人 日本リハビリテーション医学会 特任理事
公益社団法人 日本脳卒中協会 理事
一般社団法人 日本災害リハビリテーション支援協会 理事・副代表
一般社団法人 全国リハビリテーション学校協会 理事長選任理事
一般社団法人 日本リハビリテーション病院・施設協会 外部理事
一般社団法人 リハビリテーション教育評価機構 理事
一般社団法人 日本小児リハビリテーション医学会 理事/評議員
一般社団法人 RainboW Walking 理事
一般社団法人 日本脳卒中医療ケア従事者連合 理事
一般社団法人 日本訪問リハビリテーション協会 監事
ニューレジリエンスフォーラム 発起人/企画委員会委員 他

理学療法士の原点と多様性

—生涯学習制度を理学療法士の未来につなげ、 国民に理学療法を開放する—

斉藤 秀之

公益社団法人 日本理学療法士協会 会長

我が国は少子高齢人口減少社会に本格的に突入しました。社会保障制度のみならずテクノロジーや産業構造など様々な分野において大きく進路を変えざるを得ません。また、新型コロナウイルス感染症や地震・水害・地球沸騰化などの自然環境の変化も我々の生活に多大な影響を与えています。こうした社会保障制度、産業構造や自然環境の変化は、約60年を経過しようとしている我が国の理学療法士による理学療法にも影響を及ぼすことは自明だと思われます。この影響に抗わずに、理学療法の原点を見つめ直し、社会変革の速度に対応し、新たな局面に対応できる理学療法士の多元的な成長とあり方が未来像を考えています。

さて、九州理学療法士学術大会2023 in 熊本のテーマは「理学療法の原点と多様性の追求」です。坂崎浩一大会長は開催案内に、「『人生100年時代』には、生涯にわたる学習が重要で、個人の人生や社会を豊かにすることに繋がるスポーツや文化芸術活動・地域コミュニティ活動などに積極的に関わることが理学療法士に更に求められている」「振り返れば、私たちは常に理学療法士としての「原点」を大切にしながらも、時代の変遷に対し柔軟かつ多様に対応し続けている」「これからの時代、何が必要なのか、何をすべきなのか」「更に加速・拡大してくる変化の波が押し寄せても、理学療法士としての「原点」を大切に「多様性」をもって柔軟に対応し、理学療法士としての力を十分に発揮し得れば、必ずや道は開かんと強く思うところです」と想いを述べられています。私は、大会長ご自身が、次の展開を見据えながらも基本に立ち返り、今何を考え、どう行動するかという「問題提起と行動の変革」を会員に促されていると拝察します。その「問題提起と行動の変革」を「新たな理学療法の秩序(New Physical Therapy Order ; NPTO)」として演者は支持します。

そして、特別講演として演者に与えられたテーマは「理学療法士の原点と多様性」です。具体的な講演内容として「新生涯学習制度が新たに開始され、制度運用が開始され1年経過した時点での現状や今後の展望について」や「職域が拡大(多様化)していくなかで理学療法士の今後の働き方や協会の進む方向性について」などがリクエストされました。そこで、「生涯学習制度を理学療法士の未来につなげ、国民に理学療法を開放する」をサブテーマとしました。「NPTO」の創出には、生涯学習制度の見直しが重要でした。それは、背後にいる国民を今まで以上に意識すべきだったこと。またスーパージェネラルと専門性の細分化深化の同時並行が必要だったからです。今日までは新人教育プログラム・認定理学療法士・専門理学療法士という直線型の教育モデル、かつモデル理学療法士による職場外教育、卒前教育の補完的な意味合いであったのに対し、現在は登録理学療法士・認定理学療法士・専門理学療法士が並列型の研修モデル、かつ従来の士会・協会主催の研修コンテンツにとどまらず、個人の自己研鑽、職場および地域基盤型の研修による職場内教育による研鑽を重視し、社会人として多様性を認める卒後研修の意味合いを打ち出したものである事が求められます。また、最低限の同調性を求めるものとし、それ以上に自らの職業人生における自己表現力、自己実現力を高めるための仕組みと理解すべきです。したがって、生涯学習が他人との比較において優位性をひけらかしたり、他人を疎んじたりするものではなく、多様なチャンピオンモデルあるいはライフスタイル、キャリアデザインを互いにリスペクトできる風土ができたと思います。この制度が根付き、更に高みに見直された後には、理学療法が国民により開放されると信じてやみません。

一方、理学療法士の今後の働き方や協会の進む方向性は、生涯学習制度が根付くことを待つわけにはいきません。理学療法士は好奇心駆動型科学を志向する、勉強するだけにとどまらず、使命達成型科学に志向し、学問的・創造的に社会实践する働き方が求められると考えます。そして、協会は会員諸氏の原点となる理学療法業務を再定義し、合意形成することが重要になります。そして、関係団体・立法府・行政府と共に多様な働き方を保証し、会員はもとより、国民や周知し、その実践においては士会と強く連携して構築していく事業運営が必要不可欠と考えます。

演題プログラム

一般演題1 [成人中枢神経①]

11月25日(土) 11:20～12:20 第2会場(大会議室)

座長：八谷 瑞紀(西九州大学)

- O-001** パーキンソン病患者に対する
外来での短期間強化リハビリテーションの経験 (Case Report)
横田 裕季 社会医療法人春回会 長崎北病院 リハビリテーション部
- O-002** 大腿骨頸部骨折を受傷したパーキンソン患者に対する有酸素運動の効果の一例
浅香 雄太 熊本機能病院 総合リハビリテーション部 理学療法課
熊本機能病院 診療部 脳神経内科
- O-003** 腰部痛を有すパーキンソン病患者における腰曲がり角度や腰部筋断面積および
脂肪浸潤度の影響について
益田 頌子 医療法人 城南ヘルスケアグループ くまもと南部広域病院 リハビリテーション科
- O-004** 後期高齢者のパーキンソン病に対するリハビリテーション効果の検討
川野 裕貴 医療法人 城南ヘルスケアグループ くまもと南部広域病院 リハビリテーション科
- O-005** Hoehn & Yahr 重症度分類ⅢからⅣにおける2step test と
歩行および MDS-UPDRS の関連性
小牧 進太郎 藤元総合病院
- O-006** 当院外来・通所リハ利用中のパーキンソン病患者における
サルコペニア有病率と栄養状態の調査
森野 美里 社会医療法人春回会 長崎北病院

一般演題2 [成人中枢神経②]

11月25日(土) 12:30～13:20 第2会場(大会議室)

座長：宮良 広大(九州看護福祉大学)

- O-007** 心原性脳塞栓症により重度運動麻痺を呈した症例への介入
—長下肢装具の使用と前方介助歩行の検討—
田中 勝人 医療法人社団如水会 今村病院
- O-008** 長下肢装具歩行により移乗動作時の介助量軽減に繋がった右半球脳梗塞の一例
狩生 直哉 別府リハビリテーションセンター
- O-009** 脳梗塞発症3ヶ月が経過した重度左片麻痺患者に対して
歩行距離に着目した介入が奏功した1症例
荒木 翼 白十字会訪問看護ステーション 理学療法課

O-010 歩行自立に至った脳卒中後症例における歩行の左右非対称性と
白質神経線維の損傷程度との関連性
—横断調査による予備的検討—

野中 裕樹 医療法人田中会 武蔵ヶ丘病院 武蔵ヶ丘臨床研究センター
医療法人田中会 武蔵ヶ丘病院 リハビリテーション部

O-011 脳卒中後片麻痺患者における体幹運動の縦断的变化と歩行パラメータとの関連性

戸高 良祐 別府リハビリテーションセンター
大分大学大学院 福祉健康科学研究科

一般演題3 [義肢装具]

11月25日(土) 14:00～15:00 第2会場(大会議室)

座長：松田 憲亮(国際医療福祉大学 福岡保健医療学部)

O-012 熱形成インソールの装着が左右方向の重心動揺に与える影響

白元 勇次郎 学校法人都築教育学園 鹿児島第一医療リハビリ専門学校

O-013 足関節底屈拘縮に対し踵補高を貼付した装具を使用したことで
立位・歩行能力の改善を認めた脳卒中片麻痺の一例

野崎 桜陽 一般社団法人是真会 長崎リハビリテーション病院

O-014 両側片麻痺により座位保持困難となった患者におけるウェルウォークの使用経験

大淵 堅誠 社会医療法人寿量会 熊本機能病院 総合リハビリテーション部
社会医療法人寿量会 熊本機能病院 神経内科

O-015 Hybrid Assistive Limb を用いた歩行練習による歩行自立度の改善に影響する要因
—5症例によるケースシリーズ研究—

鈴木 雄太 九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部

O-016 歩行獲得に難渋した大腿切断患者に対するアプローチの検討
～Trailing Limb Angle の改善に着目して～

荒牧 直生 誠愛リハビリテーション病院

O-017 変形性膝関節症を有する左片麻痺患者の歩行における
ROSI の有用性を検討した一症例

桂田 智基 誠愛リハビリテーション病院

一般演題4 [成人中枢神経④]

11月25日(土) 15:10～16:10 第2会場(大会議室)

座長：貴嶋 芳文(都城リハビリテーション学院)

O-018 足底への振動刺激とリズム・スタビリゼーションの導入にて
顕著な立位バランス能力の向上を認めた小脳腫瘍内出血患者の一例

小原 卓博 鹿児島大学病院 リハビリテーション部

- O-019** 脳梗塞後の患者の入院時低栄養はバランス機能の改善度を小さくする
佐藤 圭祐 宜野湾記念病院 教育研究部
ちゅうざん病院 臨床教育研究センター
愛知医科大学大学院 医学研究科
- O-020** 視床出血回復期における体性感覚と立位・歩行能力の経時的変化
—1症例報告
黒仁田 武洋 鹿児島大学病院 リハビリテーション部
- O-021** 回復期病棟における重症脳血管疾患患者の歩行自立度に関する要因の検討
—BBSに着目して—
元村 亮太 緑泉会 米盛病院
- O-022** バランス訓練が困難であった運動失調の患者に対し
下肢近位筋のトレーニングが有効であった1例
池田 優介 社会医療法人青洲会 福岡青洲会病院 リハビリテーション部
- O-023** Berg Balance Scale における歩行自立度の判定基準と実際の歩行能力に
乖離を認めた脳卒中後症例に対する介入経験：
バランスのシステム理論に着目して
竹松 怜也 医療法人田中会 武蔵ヶ丘病院 リハビリテーション部

一般演題5 [成人中枢神経⑤]

11月25日(土) 16:20～17:20 第2会場(大会議室)

座長：本田 啓太(熊本保健科学大学)

- O-024** 高度肥満のために天井走行式リフトを使用し練習を行うことで身体機能の向上、
移乗動作の介助量軽減が図れた脳梗塞片麻痺の一症例
深草 湧大 医療法人かぶとやま会 久留米リハビリテーション病院
- O-025** 平行棒用オーバーヘッドフレームを用いた歩行練習の効果
～生活期脳卒中片麻痺者一症例について～
山里 隆 医療法人社団東洋会 池田病院
- O-026** ウェアラブルセンサーによる
リアルタイムフィードバックを用いた歩行練習の即時効果：
ラクナ梗塞患者1例における検討
下世 大治 垂水市立医療センター 垂水中央病院
鹿児島大学大学院 保健学研究科
- O-027** 脳卒中片麻痺患者に対する歩行支援ロボットの効果検証
～10日間の介入による歩行速度の改善について～
田代 耕一 花畑病院
医療法人福岡桜十字(桜十字先端リハビリテーションセンター SACRA)
- O-028** 回復期リハビリテーション病棟における脳卒中患者の転倒回数に影響する因子の検討
梶山 哲 農協共済 別府リハビリテーションセンター

O-029 当院でのボツリヌス療法と短期集中リハの併用による実態調査について
片渕 功規 熊本託麻台リハビリテーション病院

一般演題6 [骨関節・脊髄①]

11月25日(土) 11:20～12:20 第3会場(第6会議室)

座長：西 啓太(豊橋創造大学)

O-030 椎体骨折における経皮的椎体形成術後と保存加療の離床期間と在院日数の比較
東家 翔平 成尾整形外科病院

O-031 脊椎関節炎に対するステロイド治療後に遺残した仙結節靱帯部痛に
理学療法を行い改善した一例
荒木 美穂 九州大学病院別府病院 慢性疾患診療部

O-032 脊椎圧迫骨折患者における階段昇降の自立に影響する入院時因子の検討
保坂 公大 医療法人かぶとやま会 久留米リハビリテーション病院
西九州大学大学院 生活科学研究科 リハビリテーション学専攻
西九州大学 リハビリテーション学部

O-033 腰部脊柱管狭窄症術後症例の体性感覚障害に対する能動的感覚再学習の試み：
症例報告
山下 将弥 医療法人田中会 武蔵ヶ丘病院 リハビリテーション部

O-034 1年以内に再入院となった脊椎圧迫骨折患者の早期再受傷に至る要因の検討
土肥 昌太郎 医療法人財団聖十字会 西日本病院 総合リハビリテーション部

O-035 腰部脊柱管狭窄症患者における術後急性期の
Timed up and go test の変化に関連する因子の検討
大坪 亮太 久留米大学病院 リハビリテーション部

一般演題7 [ウィメンズヘルス]

11月25日(土) 12:30～13:20 第3会場(第6会議室)

座長：永野 忍(九州医療スポーツ専門学校)

O-036 妊婦が履くヒールの高さがバランス機能に与える影響：
シングルケースでの検討
小野 日菜乃 釘宮整形外科リハビリクリニック リハビリテーション科

O-037 女性の健康を考える第一歩
次山 航平 熊本総合医療リハビリテーション学院

O-038 更年期症状に対する関心及び実態調査及び理学療法士の認知度について
高田 理恵子 熊本総合医療リハビリテーション学院

O-039 出産希望アンケートによる人事管理について
末吉 恒一郎 医療法人おもと会 大浜第二病院

O-040 産後うつに対する運動介入効果に関するシステマティックレビュー

松田 憲亮 国際医療福祉大学 福岡保健医療学部 理学療法学科

一般演題8 [骨関節・脊髄②]

11月25日(土) 14:00～15:00 第3会場(第6会議室)

座長：阿南 雅也(大分大学)

O-041 当院における骨付き膝蓋腱を用いた膝前十字靱帯再建術後の膝筋力値 ～性別・年代別での比較～

吉田 研吾 今村総合病院 リハビリテーション部

O-042 新鮮膝前十字靱帯損傷に対する一次縫合術後の理学療法の小実験

三代 菜月 社会医療法人玄真堂 かわしまクリニック リハビリテーション科

O-043 人工膝関節全置換術術後1年後のJKOMに影響を及ぼす因子の検討

潮崎 遥 熊本整形外科病院

O-044 片側人工膝関節全置換術後患者の股関節周囲筋と体幹筋群への理学療法介入による 膝関節可動域と歩容変化

牛島 武 社会医療法人寿量会 熊本機能病院 総合リハビリテーション部 理学療法課

O-045 当院における人工膝関節全置換術後の退院遅延症例の術後成績

菊池 光祐 社会医療法人令和会 熊本整形外科病院

O-046 膝関節周囲骨切り術を施行した患者における術後5週の10m 歩行時間に関連する 因子の検討

鶴田 千尋 福岡リハビリテーション病院 リハビリテーション部

一般演題9 [スポーツ・健康①]

11月25日(土) 15:10～16:10 第3会場(第6会議室)

座長：西原 翔太(専門学校沖縄統合医療学院)

O-047 高校生ハンドボール競技大会期間中の外傷発生時の対応の実態調査

西 沙也佳 整形外科 桜木クリニック

O-048 当院における腰椎分離症患者に対する運動療法の有無と治療離脱の関係性

澤村 拓朗 医療法人社団誠療会 成尾整形外科病院 リハビリテーション科

O-049 基本チェックリストの運動器領域を含む複数領域に該当する地域在住高齢者の特性

西山 裕太 和仁会病院
長崎大学 医歯薬学総合研究科 保健学専攻

O-050 実業団女性アスリートにおける等速性膝関節屈曲・伸展筋力が 片脚着地動作時の動的バランス能力に及ぼす影響

本田 啓太 熊本保健科学大学 健康・スポーツ教育研究センター
熊本保健科学大学大学院 保健科学研究科

O-051 膝関節スポーツ障害を呈したサッカー選手のキック動作について
—フォームチェックシートを用いて—
平野 琳太郎 大場整形外科

O-052 介護従事者を対象とした腰痛予防行動尺度の作成
吉村 玲往 おそえがわ脳神経内科
西九州大学大学院 生活支援研究科

一般演題 10 [骨関節・脊髄③]

11月25日(土) 16:20～17:20 第3会場(第6会議室)

座長：河上 淳一(九州栄養福祉大学)

O-053 腱板断裂性関節症に対して小径骨頭置換術を施行し長期経過を追えた1症例
古川 雄大 地方独立行政法人 北九州市立医療センター リハビリテーション技術課

O-054 神経痛性筋萎縮症を呈した患者の理学療法の小経験
吉野 温翔 社会医療法人玄真堂 かわしまクリニック リハビリテーション部

O-055 重度拘縮肩に対する理学療法での肩関節機能の改善状況
辛嶋 良介 かわしまクリニック リハビリテーション科

O-056 上腕骨解剖頸軸回旋運動施行後リーチ動作を獲得した1症例
池田 瑞基 北九州市立門司病院

O-057 下咽頭癌の術後に長期間経過した症例に対する理学療法の経験
赤崎 将太 熊本リハビリテーション病院 リハビリテーション部 理学療法科

O-058 上腕骨近位端骨折の術後2週目における肩関節 ROM と
短期・長期的な肩関節 ROM の関係
西園 太志 緑泉会 米盛病院

一般演題 11 [呼吸・循環・代謝①]

11月25日(土) 11:20～12:20 第4会場(第7会議室)

座長：野中 裕樹(医療法人田中会 武蔵ヶ丘病院)

O-059 高齢者における待機的心拍動下冠動脈バイパス術(OPCAB)術後の転帰に
影響する因子の検討
宮川 幸太 小倉記念病院 リハビリテーション課

O-060 重度 COPD を併存していたが職場復帰できた高齢心不全患者の1症例
野中 正大 独立行政法人地域医療機能推進機構 久留米総合病院 リハビリテーション部

O-061 外来心臓リハビリテーション実施患者における退院時のうつ症状と再入院との関連
横手 翼 麻生飯塚病院 リハビリテーション部
九州大学大学院 人間環境学府

- O-062** 当院における心不全増悪による変化
松下 洋祐 御幸病院
- O-063** LVEF 分類を基にした当院の心不全患者における臨床的特徴
岡村 剛志 御幸病院
- O-064** 単独冠動脈バイパス術後の運動耐容能回復に関する研究
荒木 直哉 熊本大学病院 心臓血管外科

一般演題 12 [小児・発達]

11月25日(土) 12:30～13:20 第4会場(第7会議室)

座長：鶴崎 俊哉(長崎大学)

- O-065** 重度麻痺を呈する児の在宅での継続的な自主練習と保護者間での情報共有を目指して
平川 晋也 子どもリハビリセンター Illumination
- O-066** 先天性骨欠損症児に対する両膝義足装着による独歩獲得に難渋した一例
中村 善則 熊本託麻台リハビリテーション病院 小児リハビリテーションセンター
- O-067** 八代地域における当院の小児リハビリテーションの現状
西村 理佐 八代市医師会立病院 リハビリテーション科
- O-068** 乳幼児による気管支肺炎に対し呼吸理学療法を実施した症例について
白木 剛志 地方独立行政法人 長崎市立病院機構 長崎みなとメディカルセンター
- O-069** グアテマラの障害児者施設における JICA 海外協力隊活動の報告
津 玄徳 福岡リハビリテーション専門学校 理学療法学科

一般演題 13 [測定・評価①]

11月25日(土) 14:00～15:00 第4会場(第7会議室)

座長：高野 吉朗(国際医療福祉大学)

- O-070** 当院健康フェスティバルにおける地域住民のロコモティブシンドロームとフレイルの実態調査
日野 桃子 医療法人社団廣徳会 岡部病院
- O-071** 徒手筋力計で膝伸展筋力を評価するための予備的研究
～モーメントアーム補正の有無による比較～
吉田 禄彦 百武整形外科・スポーツクリニック
- O-072** 地域在住中高年者の最大歩行速度には体幹筋量が関係する
井手 翔太郎 甘木中央病院
- O-073** 当院外来透析患者の透析導入から約5年後の骨格筋量の経時的変化について
甲斐 有城 医療法人財団聖十字会 西日本病院 総合リハビリテーション部

O-074 体組成計評価を用いたオステオサルコペニア患者に関する身体特性の検討

平尾 総康 江南病院

O-075 手術目的に入院した高齢者の運動・認知・精神機能面の経過
～フレイルに着目して～

山口 晃樹 独立行政法人 地域医療機能推進機構 諫早総合病院

一般演題 14 [測定・評価②]

11月25日(土) 15:10～16:10 第4会場(第7会議室)

座長：田口 光(博悠会温泉病院)

O-076 院内で生じた転倒と認知関連行動アセスメントの関連性

田中 佑樹 医療法人あおぞら会 岩尾病院

O-077 介護認定を受けた高齢者のフルタンデム立位に関する要因の検討

塚田 大智 医療法人 ひらまつ病院

O-078 Figure-of-8 Walk Test と Brief-BESTest を構成する各項目との関連性

富永 章寛 医療法人啓心会 啓心会病院
佐賀大学大学院 医科学研究科

O-079 片松葉杖歩行で3/4部分荷重を行うための姿勢調整
—荷重遵守率の異なる2名の姿勢アライメントからの気づき—

中田 海聖 社会医療法人寿量会 熊本機能病院 総合リハビリテーション部

O-080 バランス能力および認知機能の向上を目的にコグニサイズを導入した症例の事例報告：
軽度認知機能障害が疑われた高齢骨折患者の一例

松尾 侯雅 医療法人田中会 武蔵ヶ丘病院 リハビリテーション部

O-081 デイケア・デイサービスを利用する地域在住高齢者の転倒予測に関する
評価指標の検討

江頭 晃 医療法人参天会 介護老人保健施設 サンシャインきいれ

一般演題 15 [呼吸・循環・代謝②]

11月25日(土) 16:20～17:20 第4会場(第7会議室)

座長：大池 貴行(九州看護福祉大学)

O-082 安定期 COPD 患者の MIP には栄養状態が関係する

末永 拓也 医療法人 敬天堂古賀病院
はがくれ呼吸ケアネット
西九州大学大学院 生活支援科学研究科 リハビリテーション学専攻
西九州大学 リハビリテーション学部

O-083 人工呼吸器関連肺炎に罹患した患者に対し
高頻度胸壁振動法と腹臥位療法を併用した一症例
— a case report —

片岡 高志 大分大学医学部附属病院 リハビリテーション部
大分大学大学院 医学研究科 博士課程

- O-084** 重症呼吸不全患者に対して
短時間の覚醒下腹臥位療法が低酸素血症の改善に有効であった一例：症例報告
島袋 陽菜 那覇市立病院 中央医療部 リハビリテーション室
- O-085** 急性期病院における重症薬剤性間質性肺炎患者に対する
アドバンス・ケア・プランニングの実施
～自宅退院に向けての取り組み～
原口 玲未 国立病院機構 再春医療センター リハビリテーション科
- O-086** 嫌気性代謝閾値レベルの運動療法が閉塞性睡眠時無呼吸・肥満低換気症候群患者の
運動耐容能に与える影響と関連因子の検討
阪口 明 社会医療法人 くわみず病院 リハビリテーション科
- O-087** 呼吸リハビリテーションを3年間継続した慢性閉塞性肺疾患患者の長期効果
—前期高齢者と後期高齢者の比較—
猿渡 聡 長生堂渡辺医院
NPO 法人 はがくれ呼吸ケアネット

一般演題 16 [地域リハビリテーション①]

11月25日(土) 11:20～12:20 第5会場(第9会議室)

座長：田中 陽理(社会医療法人 長崎記念病院)

- O-088** 長いベッド上生活で諦めていた屋外散策が多職種連携により実現できた事例
西田 透 町立太良病院
- O-089** 生活環境の変化により閉じこもり傾向が改善された一症例
岡田 沙綾香 西日本病院 総合リハビリテーション部
- O-090** 包括的なサポート継続により身体機能を維持している超高齢者の症例
腎臓リハビリテーションの視点から
藤本 龍二 医療法人博光会 御幸病院
- O-091** 訪問リハビリテーション利用者における低栄養の実態と Functional Independence
Measure および入院リスクとの関連
木須 達哉 一般社団法人是真会 在宅支援リハビリテーションセンターぎんや
- O-092** 褥瘡に対する自己管理が可能になった一例
—若年の上位頸損者に対する個人因子へのアプローチ—
田辺 龍太 訪問看護ステーション 清雅苑
- O-093** 在宅高齢者における転倒の関連性について
羽田野 聖月 医療法人財団聖十字会 西日本病院

- O-094** 複合性局所疼痛症候群患者に対し認知面と体性感覚にアプローチし
小走りが獲得できた一症例
寺井 一樹 山鹿温泉リハビリテーション病院
- O-095** 橋梗塞を発症した症例の移乗動作獲得に向けて難渋した一症例
泉 夏希 上代成城病院 リハビリテーション部
- O-096** 免荷式歩行リフトを用いた歩行練習が効果的であった多系統萎縮症の一考察
藤原 愛作 佐藤第一病院 リハビリテーション部
- O-097** 座位保持能力の改善が経口摂取獲得へつながった
左脳幹部アテローム血栓性脳梗塞の一例
鬼塚 楓 種子島医療センター
- O-098** 免疫介在性壊死性ミオパチーにより近位筋の著しい筋力低下を呈した症例に対し、
IADL 自立に向けたステロイド療法と運動療法について
相田 涼太郎 花畑病院

- O-099** 大規模災害の被災経験の有無による理学療法専攻学生の災害に関する価値意識の違い
佐藤 亮 山鹿温泉リハビリテーション病院
- O-100** AI と筋骨格シミュレーションモデルを用いた動作分析：新しい学校教育の形
河上 淳一 九州栄養福祉大学
- O-101** 臨床実習指導者評価から考える当院の臨床実習の在り方
松田 莉苑 医療法人術徳会 霧島整形外科病院
- O-102** 佐賀県理学療法士会における災害リハ支援の現状報告
川田 浩司 特定医療法人静便堂 白石共立病院
- O-103** 隔離療養下での重要なリハビリテーション：管理と実践
～新型コロナ待機ステーションの経験から～
安里 幸健 フリーランス
- O-104** 診療参加型臨床実習による2対1モデルでの臨床実習教育の経験で得られた
臨床教育者の役割と今後の課題
狩野 栄樹 宇城総合病院

- O-105** 当院回復期リハビリテーション病棟における入院時訪問の取り組み
平 和也 江南病院 リハビリテーション科
- O-106** 回復期リハビリテーション病棟での副食摂取率が
退棟時の身体機能へ及ぼす影響について
船津 雅臣 西日本病院
- O-107** 回復期リハビリテーション病棟の運動器疾患入棟患者において
新規の疾患発症とその要因
金子 大空 医療法人財団聖十字会 西日本病院 総合リハビリテーション部
- O-108** 廃用症候群患者の自宅退院に向けて
～チームアプローチでの PT の役割として～
江上 徹 熊本託麻台リハビリテーション病院
- O-109** 当院の回復期リハビリテーション病棟における運動器疾患にて
自宅復帰患者の特徴と入院時訪問指導の実施がアウトカムに与える影響
地村 綾 医療法人財団聖十字会 西日本病院 総合リハビリテーション部
- O-110** 回復期リハビリテーション病棟の機能的自立度に関連する因子
上田 萌 水前寺とうや病院

- O-111** 健常成人の前後方向の重心移動能力には、
足指把持力よりも立位での足指圧迫力が関係する
釜崎 大志郎 西九州大学 リハビリテーション学部
鹿児島大学大学院 保健学研究科 博士後期課程
- O-112** 高齢期の自発的かつ継続的な運動は概日リズムを整え、
脳損傷後の神経修復力を高める
田中 貴士 熊本保健科学大学 保健科学部 理学療法専攻
金沢医科大学 医学部 解剖学Ⅱ
- O-113** COVID-19 クラスターによるリハビリ中止期間前後での
寝たきり患者の関節可動域変化
有竹 洋平 北九州中央病院 リハビリテーション科
- O-114** 超音波計測による高齢者の筋厚・筋輝度・筋硬度と筋力・RFD の関係
高野 吉朗 国際医療福祉大学 福岡保健医療学部 理学療法学科

O-115 大腿四頭筋セッティング時の筋厚、膝蓋下脂肪体の動態変化について
～超音波エコーを用いた検討～
永江 慎一 医療法人和仁会 和仁会病院 リハビリテーション部

O-116 腰部多裂筋がリフティング動作中に腰椎の動的安定化に及ぼす影響
福田 将史 鹿児島大学大学院 保健学研究科
医療法人 安松整形外科

一般演題21 [成人中枢神経⑥]

11月26日(日) 9:00～10:00 第2会場(大会議室)

座長：久保田 勝徳(医療法人福岡桜十字 桜十字福岡病院)

O-117 視神経脊髄炎により重度対麻痺を呈した一症例
竹田 光希 宇城総合病院 リハビリテーション部

O-118 被殻および視床出血患者における皮質橋網様体路の損傷と
Pusher 現象予後との関連性
川上 翔三 熊本託麻台リハビリテーション病院

O-119 神経症状増悪を繰り返す橋出血患者に対するリスク管理と
目標設定の再考が自宅退院に繋がった一例
西原 志生 聖マリアヘルスケアセンター

O-120 pusher 症候群を有する全介助レベル右片麻痺患者の移乗動作能力向上により
自宅復帰となった一例
岩崎 健志 桜十字病院 リハビリテーション部

O-121 Pusher 現象を呈した1症例の立位練習の効果
松本 海地 社会医療法人寿量会 熊本機能病院 総合リハビリテーション部

O-122 回復期リハビリテーション病棟での多職種協働による病棟訓練導入の効果判定
藤崎 拡憲 熊本託麻台リハビリテーション病院

一般演題22 [調査・統計]

11月26日(日) 10:10～11:10 第2会場(大会議室)

座長：安村 大拙(那覇市立病院)

O-123 当訪問リハビリテーション事業所利用者における生活空間に影響を及ぼす要因について
～心理社会的側面に焦点を当てた検討～
黒木 博和 医療法人松城会 隼人温泉病院訪問リハビリテーション

O-124 当院の転倒傾向の分析と転倒予防対策チームでの活動報告
迫田 宗作 医療法人朝日野会 朝日野総合病院

O-125 心不全患者における足底板の有効性の検討
～6MWD を用いて～
溝内 一也 医療法人伴師会 愛野記念病院 リハビリテーション部

O-126 施設入所高齢者の睡眠時間に関する調査分析

田中 昭成 清雅苑

O-127 高齢外来患者における自主練習実施回数と

運動セルフ・エフィカシーおよび運動セルフ・エフィカシー情報源の関連

歌島 遼太郎 柳川リハビリテーション病院 リハビリテーション部
国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科

O-128 消化器外科術後患者の排泄自立日数に関連する要因の検討

田鍋 拓也 大手町病院 リハビリテーション部

一般演題23 [教育・管理運営②]

11月26日(日) 11:20～12:20 第2会場(大会議室)

座長：佐藤 亮(山鹿温泉リハビリテーション病院)

O-129 「企業の健康管理の専門家」としての役割

西川 真里 メディワーク

O-130 コロナ禍における退院後生活環境の情報収集ツールの作成と振り返り

～家屋環境情報シートの効果と早期よりリハゴール立案ができた一事例を通して～

岡本 彬 医療法人相生会 にしくまもと病院

O-131 職員のワークエンゲージメントとリーダーシップの関連性

高野 直哉 医療法人財団聖十字会 西日本病院 総合リハビリテーション部

O-132 リハビリテーション従事者の非特異的腰痛の有無と労働生産性に関するストレス要因

前田 智裕 西日本病院

O-133 循環器を専科とする当院急性期病棟における ADL 維持向上等体制加算導入による効果
—今後の心不全患者への介入課題について—

多和田 千秋 牧港中央病院 診療技術部 リハビリテーション課

O-134 目標設定に対する FIM レーダーチャートを用いた取り組み
～アンケート調査による当院リハスタッフの課題分析をもとに～

宮原 賢司 医療法人福岡桜十字 花畑病院

一般演題24 [骨関節・脊髄④]

11月26日(日) 9:00～10:00 第3会場(第6会議室)

座長：永井 良治(国際医療福祉大学)

O-135 大腿骨近位部骨折後の患者における歩行自立のための
Trunk muscle mass index と Trunk muscle quality index の算出

白石 涼 ちゅうざん病院 臨床教育研究センター
琉球大学大学院 医学研究科 臨床研究教育管理学講座

O-136 右人工股関節置換術7カ月経過後にウォーカー歩行を獲得した1症例

村上 武士 みずま高邦会病院

- O-137** 大腿骨近位部骨折術後の介護度変化の予測因子
持田 海斗 社会医療法人水光会 宗像水光会総合病院
- O-138** 人工股関節全置換術前方侵入法患者の術後早期歩行獲得に影響を及ぼす要因の検討
橘 和希 社会医療法人令和会 熊本整形外科病院
- O-139** 大腿骨転子部骨折術後患者の Jensen 分類を用いた
身体機能及び転帰先についての比較
藪田 悠世 医療法人財団聖十字会 西日本病院 総合リハビリテーション部
- O-140** 回復期リハビリテーション病棟における
入棟時の荷重制限がある大腿骨近位部骨折術後患者の退院時歩行自立への影響
金津 篤志 医療法人熊本桜十字 桜十字八代リハビリテーション病院 リハビリテーション部

一般演題25 [骨関節・脊髄⑤]

11月26日(日) 10:10～11:10 第3会場(第6会議室)

座長：原田 太樹(鹿児島大学病院)

- O-141** 縫工筋と内側広筋間の滑走障害により伏在神経膝蓋下枝由来の疼痛を惹起した1症例
—超音波診断装置を用いた病態解釈が理学療法に有効であった症例—
勝本 行雄 社団法人地域医療振興協会 市立大村市民病院 リハビリテーション室
- O-142** 高位脛骨骨切り術と自家培養軟骨移植術を施行した一症例
小谷 尚也 福岡大学病院 リハビリテーション部
- O-143** 荷重による舟状骨降下量が降段動作時の下段下肢の衝撃吸収に及ぼす影響
渡邊 美幸 黒木記念病院
国際医療福祉大学大学院 福祉支援工学分野
- O-144** エコーによる動態を考慮した理学療法が奏功した下肢多発骨折術後の一症例
橋本 裕司 社会医療法人玄真堂 かわしまクリニック リハビリテーション部
- O-145** 脛骨高原骨折術後の創部感染によるインプラント除去後にリンパ浮腫を生じた症例
～複合的介入が運動機能と活動量に及ぼす影響について～
鶴 大輔 たたらリハビリテーション病院 リハビリテーション技術部
- O-146** 股関節機能の改善が有効であった遷延性アキレス腱周囲炎の一症例
森口 晃一 森寺整形外科
山形県立保健医療大学大学院 保健医療学研究科 理学療法学分野 博士後期課程

一般演題26 [骨関節・脊髄⑥]

11月26日(日) 11:20～12:20 第3会場(第6会議室)

座長：飛永 浩一朗(誠愛リハビリテーション病院)

- O-147** 慢性期頸髄損傷患者へ脂肪組織由来再生幹細胞(ADRCs)注入術と
リハビリテーションを行った症例の経験
古川 繁 社会医療法人令和会 熊本リハビリテーション病院

- O-148** 転移性脊椎腫瘍による脊髄損傷患者に対して
ADL 拡大を目的としたリハビリテーション
持留 魁人 垂水市立医療センター垂水中央病院
- O-149** 硬膜外腫瘍から対麻痺を呈した多発性骨髄腫患者の自宅退院に向けての取り組み
宮平 亮治 社会医療法人雪の聖母会 聖マリア病院 リハビリテーション室
- O-150** 免荷式歩行器を使用したことにより歩行再建が早期退院に繋がった
中心性頸髄損傷患者の一例
門前 佑之輔 米盛病院
- O-151** 慢性期頸・脊髄損傷患者に対する脂肪組織由来再生幹細胞群 (ADRCs) 点滴静注治療と
リハビリテーションの経過報告
細木 悠孝 熊本リハビリテーション病院
- O-152** 急性期病院での長期入院脊髄損傷患者に対するリハビリテーション
～多職種と強く連携して最良の予後を目指した1例～
吉川 太一 熊本赤十字病院

一般演題27 [呼吸・循環・代謝③]

11月26日(日) 9:00～10:00 第4会場(第7会議室)

座長：音地 亮(北九州市立医療センター)

- O-153** 当院救命救急センターにおける COVID-19 患者へのリハビリテーションの経過報告
矢次 彩 福岡大学病院 リハビリテーション部
- O-154** 新型コロナウイルス禍における巡回運動教室と運動動画視聴が
身体機能に与える効果の検証
関 誠 帝京大学 福岡医療技術学部
- O-155** 病棟隔離時におけるリハビリテーションの必要性
新型コロナウイルス感染症による病棟隔離時の活動報告
山田 晴彦 聖ヶ塔病院 リハビリテーション部
- O-156** 新型コロナ感染症患者への退院後の自己管理の指導が必要だと感じた一例
松永 あゆり 熊本託麻台リハビリテーション病院
- O-157** COVID-19 発症後の特発性器質化肺炎の急性増悪を呈した1例
友松 亜姫 いまきいれ総合病院
- O-158** COVID-19 後に廃用症候群を呈した高齢患者に対するリハビリテーションの経験：
症例報告
小嶺 輝 武蔵丘病院

- O-159** 慢性維持血液透析患者におけるシャント不全の要因に関する検討
 広田 桂介 久留米大学病院 リハビリテーション部
- O-160** 当院における腹部大動脈瘤術後患者のリハビリテーション経過
 松本 宏多朗 社会医療法人敬和会 大分岡病院 リハビリテーション部
- O-161** 夜間頻尿を呈する一症例に対する取り組み
 ～夕方における運動療法を実施して～
 松尾 彰浩 池田病院
- O-162** 当院心大血管リハビリ対象者で eGFR 群分けした SPPB 改善について
 嶋村 法人 医療法人博光会 御幸病院 リハビリテーション部
- O-163** 重症急性肺炎に対する長期リハビリテーション介入により自宅退院可能となった症例
 田中 颯人 宮崎善仁会病院 リハビリテーション部
- O-164** 当院に呼吸器疾患で入院した90歳以上の患者における有酸素運動の実施状況の調査
 内田 有理香 いまきいれ総合病院

- O-165** 機能性便秘排出障害症例における骨盤傾斜と排便造影検査項目の相関について
 堀内 大嗣 大腸肛門病センター 高野病院
- O-166** 若年者の下肢前方リーチ距離にはアーチ高率が関係する
 藤村 諭史 医療法人公和会 横須賀病院
- O-167** 脳卒中患者の起立動作における注意の方向性と動作の対称性について
 佐藤 美紗妃 医療法人福岡桜十字 花畑病院
 医療法人福岡桜十字(桜十字先端リハビリテーションセンター SACRA)
- O-168** 移動形態の変更が日中の活動量の変化に及ぼす影響について
 今泉 夏歩 医療法人福岡桜十字 花畑病院
- O-169** 股関節外傷術後患者における Harmonic Ratio 評価の有用性について
 嶋村 剛史 熊本保健科学大学 リハビリテーション学科 理学療法学専攻
 山形県立保健医療大学大学院
- O-170** 当院の特定機能病院リハビリテーション病棟における入棟時サルコペニアの有無と
 関連因子の検討
 倉内 健生 鹿児島大学病院 リハビリテーション部

- O-171** 地域在住高齢者における臨床的体幹機能検査(FACT)が浴槽跨ぎ動作、入浴動作自立度に及ぼす影響
荒木 紀彰 医療法人メディケアアライアンス あおぞら病院
- O-172** 運動器疾患を有した地域在住後期高齢者に対する1年間の短時間通所リハは1日の活動パターンに影響を及ぼすか？
松崎 凌真 鹿児島大学大学院 保健学研究科
霧島整形外科病院
- O-173** 運動器疾患を有した地域在住高齢者における Timed up and go test と日中活動パターンの関係
松岡 輝樹 鹿児島大学大学院 保健学研究科
- O-174** 自宅退院後の生活空間に影響を与える要因の検討
早川 綾乃 リハビリテーションセンター 熊本回生会病院
- O-175** 高齢者における起立動作の離殿の可否と下肢関節運動との関係について～上肢支持の反作用による影響～
二宮 有佳 医療法人福岡桜十字 花畑病院
- O-176** 老研式活動能力指標を用いた介護予防通所リハビリテーション利用者の運動機能と手段的日常生活動能力の関連
永渕 俊輝 東福岡和仁会病院 リハビリテーション科

- O-177** 地域包括ケア病棟における目標 FIM の妥当性の検証：運動器疾患の移動・トイレ動作に着目して
上野 猛 医療法人寿芳会 芳野病院
- O-178** 「生活介護」におけるリハビリテーションの役割
長谷場 純仁 (株)M & A JAPAN 障がい者支援事業「ナナール未来」
- O-179** 通所型サービス C(短期集中予防サービス)の普及啓発・実践について
大賀 完 益城町役場 健康保険課 保健事業係
- O-180** 応用行動分析に基づいた運動が患者心理に影響を与えた一症例
堀永 諭志 医療法人敬天会 東和病院

O-181 介護予防サポーターを介した運動指導が通いの場に参加している地域住民に与える影響
—骨盤底筋群トレーニングの指導効果 第1報—
原野 達也 聖マリアグループ 雪の聖母会 地域共生センター
久留米大学大学院 医学研究科 博士課程

O-182 熊本県運動器機能評価の取り組み推進に向けた活動報告
北尾 昌平 熊本県理学療法士協会
株式会社 ともいき Labo

一般演題32 [スポーツ・健康②]

11月26日(日) 11:20～12:20 第5会場(第9会議室)

座長：中原 雅美(国際医療福祉大学)

O-183 心血管疾患入院患者における入院前の活動的趣味と退院時のフレイルとの関連
中根 知尋 麻生飯塚病院 リハビリテーション部

O-184 骨粗鬆症患者における1年後サルコペニアに該当した症例の身体的特徴
樋口 貴彦 社会医療法人水光会 宗像水光会総合病院

O-185 地域サロン利用者のフレイル状況とアンケート調査の関連
三田 真平 医療法人財団聖十字会 西日本病院 総合リハビリテーション部

O-186 サルコペニアの可能性のある高齢者に対して運動療法を継続的に行い
活動性の向上につながった訪問リハビリテーションの一症例
酒井 祥平 愛野記念病院

O-187 大分県杵築市で実施している住民主体型介護予防教室参加者の
身体機能の変化について
朝井 政治 大分大学 福祉健康科学部
大分大学大学院 福祉健康科学研究科

O-188 当院骨粗鬆症外来患者に対する転倒予防の取り組み
山下 工樹 朝日野総合病院

O-001 成人中枢神経①

パーキンソン病患者に対する 外来での短期間強化リハビリテーションの経験 (Case Report)

○横田 裕季、山田 麻和、山口 滉大

社会医療法人春回会 長崎北病院 リハビリテーション部

keyword：パーキンソン病、外来リハ、姿勢

【はじめに】近年、パーキンソン病(PD)患者に対する入院での短期間集中リハビリテーション(リハ)の有用性が報告されている(Tomlinsonら、2013)。今回、短期間強化リハを導入し、既存の報告より少ない介入期間や回数であっても、身体機能の改善を認めたため報告する。

【症例紹介】PD診断後10年経過した50代後半男性。BMI：29.1、MMSE：29点、手段的日常生活動作を含め全て自立。著明なOFF状態はないが、夕方から動きが悪くなる傾向にある。姿勢は体幹が前屈しており、かつ右に傾いていた。主訴は直進歩行が難しく、左腰部痛が出現し頻回に休憩が必要なことであった。

【介入前評価】修正 Hoehn And Yahr 重症度分類：stage 2.5, Unified Parkinson's Disease Rating Scale (UPDRS) Part III：31/132点、Mini Balance Evaluation Systems Test (Mini-BESTest)：19/28点、10m 歩行試験(10MWT、快適)：1.02m/s、6分間歩行距離(6MWD)：311.4m、脊柱計測分析器による体幹側屈角度：右30.5度、体幹前屈角度：11.0度、39-item Parkinson's Disease Questionnaire (PDQ39)：99/156点。歩行時は両手を後方で組み、左立脚後期における中足指節関節(MP関節)の伸展が減少していた。

【仮説】歩行時、体幹前屈による前方重心のバランスを取るために両手を後方で組み、腕振りが無いこと、体幹の右への傾きにより左下肢への荷重が不十分のため、立脚後期のフォアフットロッカー機能が低下していることが問題と考えた。姿勢の改善を図ることで重心移動が容易となり、直進歩行のスムーズさに繋がると仮説した。

【PT介入と経過】1回60分の理学療法を週2回、6週間実施した(計12回)。姿勢の矯正、および良好な姿勢を保ちながら四肢や脊柱を大きく動かす練習を行った。座位や立位での静的バランス練習から、ステップ動作や歩行など動的バランス練習に段階的に移行した。練習中は良好な姿勢を保てるように、姿勢鏡やセラピストの声かけを用いて、視覚や聴覚のフィードバックを利用した。また、重心移動に伴う足底の荷重感覚に注意を向けるように促し、体性感覚からのフィードバックを組み合わせた。介入後半では体幹伸展位での持続運動が可能となり、左腰部痛の訴えが無くなった。介入中に服薬の調整は行われなかった。自宅での自主トレーニングとして週2回の筋力増強訓練を併用し、介入後も継続を依頼した。

【介入後評価】UPDRS Part III：20/132点、Mini-BESTest：22/28点、10MWT：1.20m/s、6MWD：396.78m、体幹側屈角度：右21.4度、体幹前屈曲角度：8.4度、PDQ39：81/156点。体幹の前屈と右への傾きが軽減し、歩行時に腕振りが可能となった。また、左立脚後期のMP関節の伸展が増加し、ステップ長も延長した。姿勢を意識するようになり、直進歩行のコツがわかるようになったと内省が得られた。

【考察】疾患早期～中期のPD患者に対して、週1回以上の理学療法を長期間(6ヶ月以上)行うことにより、運動症状の改善や、抗PD薬の内服薬を減少する効果があることが示されている(Okadaら、2021)。今回、短期間強化リハにおいても姿勢の改善に加え、UPDRS Part IIIにおける臨床に意義のある最小差(3.25点)や、10MWTにおける最小可検変化量(MDC、0.18m/秒)、および6MWDにおけるMDC(82m)を超える身体機能の改善が認められた。視覚や聴覚、体性感覚を組み合わせた複合的なフィードバックにより、身体イメージや運動イメージが修正され、姿勢の改善や直進歩行の再学習に繋がったと考えられた。今後は3ヶ月おきに1年後までの長期効果について検証予定である。

【倫理的配慮・説明と同意】ヘルシンキ宣言に基づく倫理的原則に配慮し、症例に内容を説明し書面にて同意を得た。

O-002 成人中枢神経①

大腿骨頸部骨折を受傷したパーキンソン患者に対する 有酸素運動の効果の一例

○浅香 雄太¹⁾²⁾、三宮 克彦¹⁾、大橋 妙子¹⁾、赤瀬 諒市¹⁾、
時里 香²⁾

1) 熊本機能病院 総合リハビリテーション部 理学療法課

2) 熊本機能病院 診療部 脳神経内科

keyword：パーキンソン病、有酸素運動、運動負荷量

【はじめに】パーキンソン病(以下、PD)で大腿骨頸部骨折を受傷した患者を経験した。筋骨格系の疼痛にPD症状が合併し運動療法に苦慮したが、有酸素運動を重点的にを行い身体機能が改善したため報告する。

【症例紹介】80代女性で、PD診断後3年が経過。Hoehn & Yahrの重症度分類はステージIV。主なPD症状はwearing-off現象、筋固縮、動作緩慢を認めた。Mini Mental State Examination(MMSE)は26点で、主な移動手段は手支持型歩行車であった。転倒により左大腿骨頸部骨折を受傷し、手術およびリハビリ目的で当院入院となった。

【経過】受傷3日目に左人工骨頭置換術施行し、術後1日目よりリハ開始。術後7日目に前腕支持型歩行車歩行開始。耐久性や筋力低下が著明であった。術後30日目に病室内手支持型歩行車歩行自立とするが、創部周囲の歩行痛残存により積極的に歩行されなかったため、術後33日目より負荷量可変式エルゴメーター(以下、てらすエルゴ)を用い下肢駆動による有酸素運動を開始。また、下肢のレジスタンストレーニング(以下、RT)を追加した。術後72日目に手支持型歩行車で自宅退院となる。

【方法】1ヵ月間有酸素運動を実施し、運動開始時と終了時の身体機能を評価した。項目は、Numerical Rating Scale(以下、NRS)での疼痛評価、Hand Held Dynamometer(ミュータスF-1、アニマ社製)での膝伸筋力と伸筋筋力体重率、5回立ち上がりテスト(以下、5STS)、Timed Up & Go Test(以下、TUG)、6分間歩行テスト(以下、6MWT)、10m歩行テスト、Berg Balance Scale(以下、BBS)、Functional Independence Measure(以下、FIM)、Unified Parkinson's Disease Rating Scale(以下、UPDRS)とし、PD症状を考慮しON時に行った。てらすエルゴの運動負荷量は、強度を20Wで10分間、回転数50回/分、目標心拍数(カルボネン法に基づき計算)を95回/分程度とした。RTは起立やランジ動作を40～50%1RMで行い、疼痛に応じ漸増的に追加した。なお、今回の介入期間を通しPDの薬剤調整はなかった。

【結果】有酸素運動実施前後で、歩行時の左大腿部痛はNRS5→1、膝伸筋筋力は健側9.59→10.61kgf、患側6.83→11.63kgf、膝伸筋筋力体重率は健側20.5→22.6%、患側14.6→24.9%、5STSは20.48→10.31秒、TUGは24.29→15.23秒、6MWTは160→280m、10m歩行テストは最大速度11.44→9.25秒、BBSは45→53点、FIMは94→107点、UPDRSは50→43点と全項目で改善した。

【考察】PDを合併する大腿骨頸部骨折患者は、周術期にPD症状や合併症が増悪するため非PD患者と比較してADL改善が不良であり、リハビリが遅延するとされている。本症例も周術期に寝動、筋固縮などPD症状を認め、リハビリ進行の妨げになっていた。加えて歩行時痛で活動量が増えず、身体活動量増加とADL能力向上が課題だった。そこで、疼痛なく一定量の運動を安全に行える「てらすエルゴ」を用いた有酸素運動を開始した。また、近年有効性が示されているRTを併用した。

PD患者における有酸素運動はドーパミンなどの神経伝達物質が分泌されることで、PD症状の緩和に役立つとされ、RTは筋力や筋量の改善に加え、黒質等の脳活動を活性化する可能性が示唆されている。また、城らは、「継続的な運動を行うことで身体活動量を増大させることが疼痛修飾機能の改善・向上につながる」としている。本症例の場合、有酸素運動を契機にPD症状の緩和や組織修復が促進され、疼痛が軽減できたのではないかと考える。加えて、RTの継続が筋活動及び身体活動量を増加させ、日常場面で活動しやすくなったと考える。

また、本症例は前回入院時より改善した評価項目もあり、有酸素運動とRTの併用が著効した症例であったと考える。

九州理学療法士学会大会 2023 in 熊本
抄 録 集

発行日：2023年11月16日 第1版

発行者：日本理学療法士協会九州ブロック会

出 版：株式会社セカンド

〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F

TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025

<https://secand.jp/>